

柏崎体育

第75号

—第5回体力つくり推進全国大会特集号—



—よいこの民踊— 体育祭から

柏 崎 体 育 团

柏崎市体育コンビナート



①陸上競技場 ②市民広場野球場 ③市営総合プール ④野外劇場 ⑤スポーツハウス ⑥海岸公園

⑦市営ユースホステル ⑧第一中学校（体育館2、野球場、25mプール、テニスコート2）

⑨柏崎高校（野球場、体育館一階は冬季屋外グランド、25mプール、テニスコート3）

⑩柏崎工業高校（野球場、体育館2、テニスコート4、25mプール(44年)

⑪柏崎小学校（体育館2、25mプール）

・柏崎商業高校（体育館2、25mプール、野球場、200mトラック、テニスコート4）（1000m北東方向）

・市営白竜公園テニスコート（6面）—（1000m東方向）

・坂田体育研究所（体育館）—（700m北東方向）

第5回体育つくり推進全国大会を迎えて



柏崎体育団長

近藤禄郎

皆様ようこそ柏崎市において下さいました。

私共柏崎体育団は、心から歓迎申し上げる次第でございます……と、申します事は、おいでいただいた全国の優秀な皆様方より、体力つくり柏崎の実態を凡ゆる角度から見ていただきて素直な御批判と御指導をいただきたいからなのです。体力つくり運動、健康つくり運動が、日本にとつて真剣に考えられ、実行に移らなければ大変な事になることは、皆様方御自身痛感されておられる事と存じます。

日本の一点にしか過ぎない私共も、柏崎市、刈羽郡民12万人をかゝえて、どうあるべきかで四苦八苦しておる状態でございます。柏崎体育団は、発足以来45年を経過しましたが、この45年の歳月は先輩各位と共に、血の出る思いで努力してまいりました。

一例をあげますならば、大正12年に 400m公認グラウンドを民間の手によつて造り上げた事です。

これは明治神宮競技場が造られた一年前であり、北国の名もなき小さな町が、町民の汗と手によつて造られた事です。

青少年に目標を与えよ！

青少年に、ファッティング・スピリットを植え付けよ！

青少年に、グランド・マナーを教えよ！ 先輩各位の精神は、今でも脈々として私共に受けつかれ、新潟県下に於てのスポーツのツカとして認められておるのであります。

戦争中に於ても、体力の練磨と、町のシンボルとしてのグラウンドは、凡ゆるカン難を克服して民間の手により守られてきましたのでありますが、戦後時世の変遷により、市営に移管されました。

市の体育行事は、全部柏崎体育団が主管して行つております、行政との一体化は誇るべきもの有りと信じておる次第でございます。

又終戦直後の体育大会の開催「全国都市体育研究協議会」を横浜市と共に提唱して全国に呼びかけ開催し、健民少年団の設立等日本全体の問題として努力してきたのであります。

社団法人坂田体育研究所の設立も、体力つくりの基本である体操の普及を、郡市民12万に呼びかける事を目標としており「12万人皆体操」に向つて着々と実現に努力しておる次第でございます。

新潟国体を契機として、スポーツ・コンビナートの名称にふさわしい施設の拡充と整備は小、中、高の学校体育との密接な連繋により一つ一つ実現されており、昭和44年度には、スポーツ、トレーニングセンターの設立が企画されこれには成人病対策、婦人の美容健康問題も折り込んだ、スポーツ医学を通しての体力つくり、健康つくりのセンターとするべく研究努力中でございます。

此度の第五回国民体力つくり推進全国大会を好機として、私共の機関紙である「柏崎体育」の特集号を刊行し、少しでも柏崎体育の実態を知つていただければ幸甚と思う次第でございます。

今後の御指導、御鞭撻を心から御願い致しまして御挨拶とかえる次第でございます。

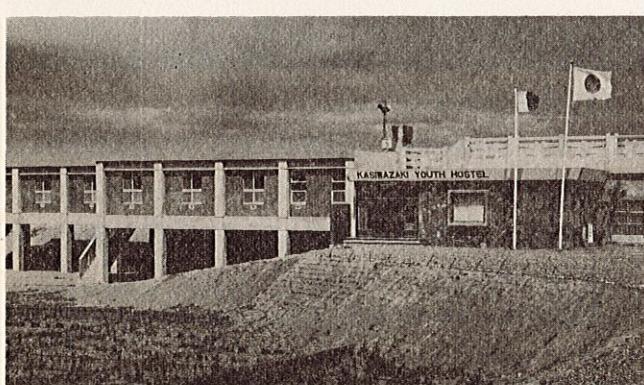
柏崎の体育

柏崎体育団

(1) はじめに

柏崎という地名が歴史上確定するのは室町時代からであるという。伝説的には、謡曲「柏崎」にあるように、鎌倉時代からすでに或る種の政治的根拠地であつたとも考えられている。又かの日蓮上人が鎌倉幕府のために佐渡に流され、後、ゆるされて帰還の際、暴風のため市内番神岬に打ち上げられたのは確かな史実であるので、とにかく鎌倉時代には名があつたと見ねばならないようである。ともあれそんな昔から明治に至るまで、柏崎は純粹の商業都市として栄えて来たのである。交通の要地でありながら城がきずかれることもなく、軍隊の基地となることもなく、経済一すじ、全国を相手に、陸路と海路で商売をしたいということは、柏崎人の性格を形成する上で極めて重大な要素となつたのである。

即ちそれは、封建的そくばくを嫌い、自由人として大きくはばたこうとし、視野が広くなり、偏狭を排することとなる。実利に敏感であり、時とすれば新しいものに目をよく配せる。明朗であり、引込み思案を避ける。従つてその反面、頑固に一つのものにこりかたまるようなことは割合少く、移り気であり、あき易いなどいろいろあると思う。この柏崎人の性質は、柏崎体育を確立する上に、しつかりと心の中に据えておかねばならないことであり、このことなくて柏崎体育の過去、現在の理解と将来人の設計がなされないのである。言うまでもなく柏崎の体育には、洲崎義郎、坂田四郎吉、島掛藤次郎の三氏をおいて語ることの出来ない部面がその大部分であり、この三氏はいずれも柏崎人らしからぬ多くの部面を持つている人である。しかし大局を通じて達



体育コンビナート

④ ユースホステル

県下に初めての市営ユースホステルで旅行者、研修会など多くの人に利用されている。昭和41年4月21日に開所、宿泊定員は61名である。中は集会室、浴室、娯楽施設など、よい環境の中にある。利用料金は二食付で一般600円、中学生以下550円。

観すれば、やはり大きな柏崎人であり、柏崎の体育はやはり柏崎の体育としての特色を明確に性格づけているのである。

(2) 柏崎体育のはじまり

故荒浜村長巻口義矩氏は故平沼亮三氏と慶應義塾の同級生であり、日本で一番早くオートバイにのつたり、慶應の柔道部の大先輩だつたりした人で、平沼さんに負けないスポーツマンであつたとのことである。このように個人的には幾多の体育人が出てはいるが、この柏崎に体育が、教育的に系統をなして実施されたのは明治33年をもつてはじめとする。この年は新潟県立高田中学校柏崎分校

として、今の柏崎高校が設立され、市内田町（現東本町1）福巣院に開校したのである。同年11月20日現在位置に移ると共に体育も漸次その形をなし、34年9月には撃剣（剣道）の練習開始、同年11月3日には柏崎中学校親友会が発会するのである。この親友会には撃剣、柔道、野球、庭球、端艇の五部があり総括して武技部と称した。思うに文芸部、弁論部等に対したものであろうが、当時の気風を知る上で面白い。

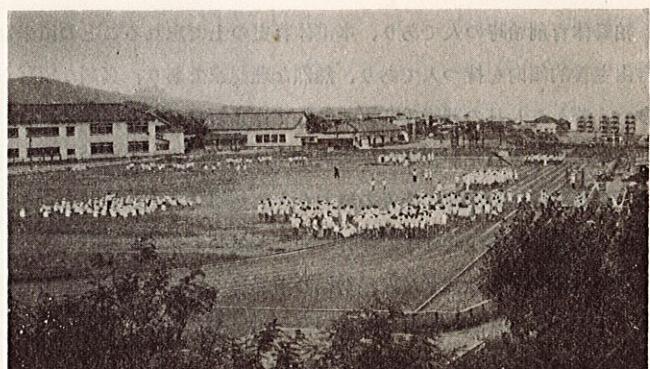
この頃柏崎は西山油田の最盛期であり、石油産業の日本最大の生産地として素晴らしい羽振りの時であつた。市民の意氣も大いにあがり、おそらく柏崎市史の上に於て最も経済的に恵まれた時でなかろうか。明治36年には刈羽郡立柏崎女学校が創設され、これが今日の県立常盤高等学校の前身である。ここに女子体育もまたスタートを切つたのである。当時の女子体育の内容は現在の女子体育とは全く様相の異なるもので、スポーツ的なものは殆んどみられないが、それでも、明治38年5月28日奇しくも日本海大海戦の日、柏崎高等女学校テニス競技会が行なわれている。おそらく本市女子スポーツ大会としては文献上最初の大会でないかと思う。以後柏崎商業高校は新潟県刈羽郡立乙種商業学校と称し明治43年4月開校、柏崎農業高校は明治44年新潟県刈羽郡立農学校として誕生したのである。これ等の学校が続々と出て来ると、これに伴い青少年の体育もその質量共に向上了ことは疑を入れられない所であろう。更に角度をかえ対外試合を見ると、最も早いのが明治35年6月、柏崎中学校と長岡中学校との間に野球試合が行なわれている。おもうに、長岡中学校を招き、まだ五年生のいない柏崎中学校が野球を教えてもらつたものと思われる。しかし単に参加することだけならば、これに先立つこと1年、明治34年県下中学校連合運動会が新潟にあり、これに柏崎中学校の生徒が参加している。

ところが女子の対外試合となるとずつと遅くなり、現在わかる文献では大正13年9月7日柏崎高等女学校が高田、糸魚川の両女学校と庭球やバスケットボールの対戦をしている。おそらくこれ以前にもあつたことは思うが今のところ不明である。あつたとしても大正10年以後と思われる。随分その時期男女の差が出ているものと驚く外ないのである。

この外比較的古くはじまつたものに水泳がある。柏崎中学校水泳部は明治39年7月創立し、水府流を採用している。これが後日の柏崎水泳協会に発展し、戦後の柏崎高校水球全国制覇の下地ともなるのである。

スキーはオーストリアハンガリーの陸軍少佐フォン・レルヒ氏が高田13師団にスキーを教えたのが明治44年1月であり、この2月には柏崎中学校教諭光沢馨香、北島喜助両氏が高田で講習をうけている。

柏崎高等女学校がスキー32台をそろえ、本市女子としてはじめてスキーをはいたのが大正2年1月4日と



体育コンビナート

●陸 上 競 技 場

大正12年9月に竣工され古い歴史をもつ競技場、日本陸連第二種公認競技場で、昭和5年に最初の公認をうける。一周400m、直走路160m、巾員10m20、投げ、跳躍場各2ヶ所、役員席、放送席、スタンドを備える。

なつている。かえりみて誠に感概深いものがある。

このようにして柏崎の体育は、学校体育によつて近代への幕が切つて落されたのである。近代の体育を特色づけるものは、見る立場によつていろいろあらうが、何といつても体操による科学性の附加、更にスポーツによる国民性の確立にあるといつて差支えないと思う。柏崎の体育もこの近代体育への道をたどりつつ、どのような様相をみせたであろうか。

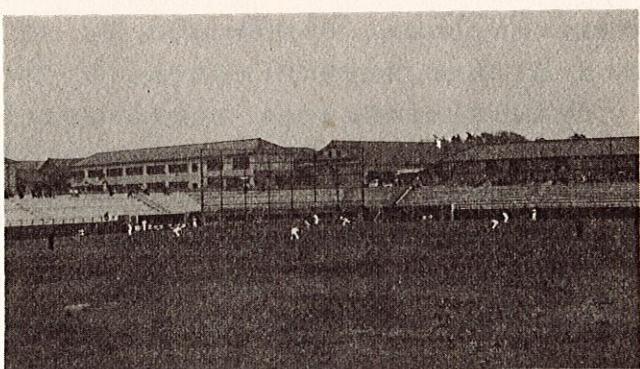
(3) 柏崎体育の特色

柏崎の体育は、体育として芽生えてから今日に至るまで67年、その間幾多の変遷もあり、時と人により必ず同じ流れを通つたわけではない。しかし其の根本を貫くものは年と共にますます明瞭になつて来ているのである。柏崎体育の特色とはこれをいわなければならない。

◎ 本質を追う

柏崎体育創始時の人であり、本市体育史の上で忘れることの出来ない人は洲崎義郎氏である。氏が思想的に自由主義的傾向を持つ人であり、熱烈な理想家であり、真剣な実践家であつたところに柏崎体育は負うものが多い。若かりし日の洲崎氏は27才にして比角村長となり、学校教育に、青年団運動に、或いは新しい産業基盤の改造に努力されたが、その中に於ける体育は、自らも庭球の優秀選手として活躍される一面（全国大会第3位）青少年の体育振興に絶大の努力をされたのである。官制の青年団運動を極度に嫌い、本質を掘り下げる教育を排撃した実践活動は、今日に於てもなお生きている。

柏崎の体育はこのような人が初期の指導者であつたため、他市町村とは一風違つた体育が生れたのである。即ちそれは、文部省の方針だとか、県の方針だとかいうことに必ずしも同調しない。あくまでも体育の本質からみて正しいかどうか、本質に根ざす理論として妥当かどうかを考えたのである。これは大正15年制定の学校体操教授要目、昭和11年制定の同要目の実践に於ていくつかの事件をおこしている。当時の県の体育主事の卑劣なる妨害、中傷行為に対し、学校体育陣の一部が敢然と抗したもので、今日からみる時いざれが正しかつたか明瞭な事であるが、当時に於ては、天皇の命に反するものとか、要目のとおり行なわないのはアカであるとかいわれたのである。更に学校体育はあげて戦技訓練となり航空体育となつたのであるが、この中に於て柏崎体育は如何にして体育の本質を守るか、如何にして正しい体育を育てあげるかに苦心をしたのである。形式的時流に押し流される者が往々にして研究家とか、先見の明があるとかいわれ、これに反し本質を追い、根底を



体育コンビナート

◎ 海岸公園、市民広場野球場

シーズン中空いている日がないなど、市民に利用され、毎年多くの大会が行われている。昭和39年5月31日、約1,578万円で竣工。中堅116m、両翼91m、敷地面積16220m²の広さをもつ、役員席、ダックアウト、フェンス、スコアボーラー、バックスクリーン、バックネットを備え、スタンド収容人員約4000人である。

ゆるぎないようにする者は、見捨てられ、ないがしろにされるものである。

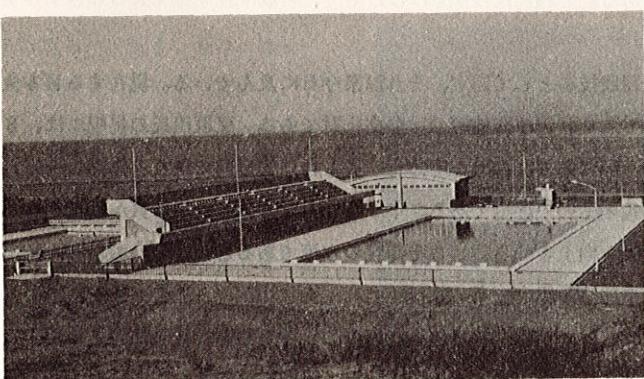
しかし、敗戦は一挙にして過去を全部消し去つた、戦後何をなすべきか、文部省はじめ体育関係者の狼狽ぶりは見るも哀れであつた。この中に整然として行動し、着々と成果をあげ、いささかも動搖しなかつたのは、米峰体育人会を中心とする柏崎の学校体育人であつた。本質を追う者の強さ、正しさをこの時ほど明確に見せられたものはなかつたといつてよい。これは柏崎体育の土壤にはえた大樹であつたからである。

しかし柏崎の体育は、何か正体不明のものをかたく信じ、後生大事にそれを守つているものではない。外国に於ける体育の流れにもつとめて目を向け、時には人を派し、国内に於ける各種の研究や実践にも出来るだけ目を配つたのである。例えばデンマーク体操は第1回のOD（オーデー）会員からあり、三橋体育研究所のように、当時文部省の一部からは国賊よばりされていた所へも研究生を派けんしていたのである。

本質を追うということは、特にレジスタンスの精神を必要とする。戦後すでに20年、近來の体育特に学校体育にはこのレジスタンスの精神に大きな変化をみる。体育は身体を通じる教育であり、身を以て身に到らせる教育である。本質を追う精神がなくなつた時は単に一種の奇術に化してしまう。改めて今日ほど本質を追求する必要を感じることはない。かつて連隊区司令部や、土地の有力方面から陸上競技場を畠にせよといわれて断乎として拒否したことや、銃剣術連盟をつくることを軍部から強制されても遂に結成しなかつたことは、事は小さなものでしかないが、当時に於ては並々ならぬ勇気が必要であつた。

◎ 庶民性に根ざす

柏崎の体育施設は入場料をとるための設備はほとんどしていない。誰でも簡単に使用出来るようになつてゐる。最近では不完全なものながら夜間照明をつけ、夜間も体育が出来るようになりつつある。柏崎の体育の歴史は、朝体操、納涼体操、体操俱楽部、フイニツクスクラブ、等と体操の行事やクラブは随分歴史の古いもの



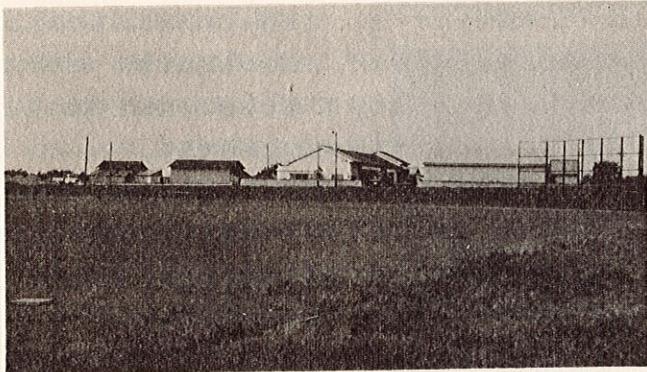
体育コンビナート

◎市営海岸公園総合プール

シーズン中多くの市民が利用し、合宿、大会にも使用されている。昭和38年5月31日約5000万円で竣工された。50m、25m、徒歩プール、管理棟、機械棟、循環装置、夜間照明、放送設備等を備え水球にも利用出来る。公認プールでスタンド収容人員1500人。

がある。（柏崎体操俱楽部は昭和6年創立）しかし体操競技、器械体操はこれにくらべ余り盛んではなかつた。これは柏崎体育の庶民性を物語る材料である。

柏崎市営陸上競技場は昭和24年までは柏崎体育団が所有していたものである。又国体を期として市営総合プールをつくりたので、現在は2つの高校の練習ノールとなつてゐる八坂プール（長水路）も柏崎体育団が所有していたのである。柏崎体育団は他市町村の体育協会に相当する団体であるが、民間団体でありながら第2種公認競技場と長水路プールの2つを持つてゐるものは全国余りそ



体育コンビナート

◎第一中学校野球場

昭和39年5月30日、約684万円で海岸広場として竣工、現在は一中グランドである。グランドは正方形の形で $130m \times 120m$ あり、約 $5,400m^2$ の広さでバックネット、スコアボードを備え、土盛スタンドは収容人員1640人、

要路の人達を説き伏せ、財界の有名メンバーの理解をとりつけ、現在の市営陸上競技場の建設の大動力となつたのである。もとより多くの人の協力がなくてはこのような大事業は出来るものではないが、その提唱者であり、中心であり、動力であり、しかもその管理に当つたという点からみて、坂田四郎吉氏がこのグラウンドを作つたといつても何人も否定出来ない所である。それ程氏の熱意ははげしく、行動は野を焼く火の如きさまじさがあつたのである。

竣工大正12年10月7日、昭和6年乙種公認競技場として認定、それ以来今日に及んでいる。現在する日本全体の公認競技場の中で最も古いものがこれである。正に競技場の重要文化財である。又坂田氏の提唱には、8万市民皆体操運動がある。体操こそ健康の基底であり、体操こそ体育の最も合理的な形態であり、体操こそ万人いずれもが実施可能のものである。これが氏の体操の理論である。申すまでもなく、この中に貫かれている思想は、庶民のものとしての体育、庶民の健康を向上させる体育こそ体育の本流であるというものである。柏崎の体育に庶民性を与えたことに於て坂田氏の功績は絶大である。

体育を学校体育と社会体育に分け、如何にも対立する二つの体育概念の如く考えたり、社会体育とは何かといえば、学校体育以外がそれであるというような感覚で果して体育行政や、体育指導があつてよいのであろうか。体育を系統的、指導的、発展的つまり教育的に考えれば、悉くこれ学校体育であつて社会体育という体育はない。しかし社会という生きた空間、生きた時間に生成する我々には一つとして同じもの、同じ集団はない社会より出る利害いざれをも分析整理してこれに対する方策をたて、社会有用の材にする考え方の体育に於ては悉くこれ社会体育で、学校の生徒であるからの故を以ての学校体育はないこととなる。ここで現在一番の問題点は何であろうか、自問するならばそれは経済的立場を強く出す、そして体力的底辺におち入り勝な人達の体育なのであろうか。それは社会体育の概念ではおおいつくせないもの、即ち庶民の体育でなかろうか。

の例をみないと思う。民間団体が陸上競技場は大正12年以来、プールは昭和10年以来、戦前戦後を通じて保管經營し、しかも公認資格を維持することは至難の業といわねばならない。その上使用料は全くとらないのであるから、異常な熱意と執心がなくては出来るものではない。私達はここに誇り得る大指導者を見出すことが出来る。

それは坂田四郎吉氏である。氏は壮丁検査丁種という悲運に憤起し、徴兵検査以後病弱の身を叱咤して体育に志したのである。柏崎の砂丘に大運動場を建設することを悲願としあらゆる辛酸苦労の末、郡政、町政

御教示ねがいたい所である。

◎ 施設の有機的運用

柏崎の体育施設は一見大したことではないようである。しかしそく見るとこの位有機的運用が出来るように配置されているのは他に例を見ない。

例えば野球の大会をする場合、正規の球場が四面、半径200mの円の中にひつかかつて来る。市営球場、柏高球場、柏工高球場、一中球場である。先ずどんな大きな大会でもここで、選手の移動に自動車を考えずに実施出来る。市営のプールは、水球試合も出来る長水路プールに、25m 6コースの補助プールを持つている。これに接し柏高プール（水球練習可能）一中プール、近く出来る柏工高プールとならんでいる。即ち学校、市営の各施設が、市営陸上競技場を中心として、実によく配置されている。これは大正12年陸上競技場が竣工して以来ずっと体育の先輩後輩が夢に描き、着着と実行して来た成果なのである。近く市営体育館が出来ると画龍点睛となるのであるが、このように永い年月、未来像を忘れずに、だんだんとまとめあげていく施設の有機的運営は、なかなか心掛けても出来ることではない。ここに柏崎体育の特色があるのである。更にこの施設をめぐり、国体の機会に、柏崎神社を西へ移転させて、駅から海岸への大通り完成させ、一層この施設を便利なものとしたり、ユーホステルをここに建てて、宿泊の便をよくしたりしている。思えば永い才月であつたが、ようやく描きつづけて来たものの完成が近くなつて来た。

私達は小都市に於ける体育施設のあり方というものには一つの考え方を持つている。小都市は財政力の貧弱又は財政に彈力性のないことが一つの特色である。その小都市が体育施設を持とうとすれば、勢い箱庭的な小規模なものしか持てず、それさえ中々維持出来ないということになる。他面たつた一面位のグラウンドでは、ちよつとした大会はもう開くことが出来ない。結局あぶはちとらずのお体裁としての施設に終ることとなる。

柏崎では、機会ある毎に学校の体育施設はなるべく大きいもの、なるべく多方面に使われるものを作る。そのうえ市施設と併設し、一面管理面でも市の手が抜けるように考えている。これがどんな大会を柏崎に持つて来られてもびくともしない素地となつたのである。

想うに、体育は必ずしも施設を必要としない。しかし施設のある方がない方より遙かにやり易く、普及し易いことは論をまたない。施設は当然建設費がかかり、維持管理費がかかる。この相反する二つの条件をどう克服し、どう調和させるかが問題である。維持管理の中に於て、目に



体育コンビナート

◎柏崎高校野球場

市内で最も古い野球場で多くの大会に利用されている。中堅108m、両翼87m、総面積13,600m²で移動式外野フェンス、スコアボーラード、バッケネット、ダッグアウトを備えスタンドには1500人収容出来る。